宗像

毎月十五日発行
発行所
宗像大社
宗像会
〒811-35　福岡県宗像郡玄海町
電話　0940－62－1311(代)
定価　一年送料共　1000円

神具・装束
結婚式場用品
株式会社 井筒
福岡店　福岡市博多区東公園一－三一(〒812)
本店　京都市下京区油小路六条北入(〒600)
電話　福岡(092)六五一－九四五六番
電話　京都(075)三四一－三三四一(代)～四番

玄界若布献上

早春の皇居に参内

玄界灘の荒磯で採取された早春の天然若布を献上申し上げる重儀が、さる三月三日の節日に養父宮司以下三名により恙無く執り行われた。この若布献上の儀は天皇・皇后両陛下、皇太子・同妃両殿下、賢所に献上申し上げているもので本年で三十三回目を迎えた。

若布献上の儀は、当大社の御神徳の由縁によるもので昭和三十八年宗像七浦の漁業関係者で結成された「海洋神事奉賛会」の手により採取され奉製された若布を献上申し上げている。

献上若布は二月中旬厳寒の海に潜り根元より刈り取り様々な行程を経て奉製したもので、この中から厳選を重ね4.5kgを献上申し上げている。

本年は若布の生育がやや遅くなったものの大変良質で二十五日海洋神事奉賛会より当大社に納入された。

早速神職、巫女により選別、奉製作業を行い1.5kgづつ慎重に三箱の杉柾目板献上箱に収納し当日まで厳重に保管した。

三月二日午前九時献上若布奉告祭を斎行し無事献上を祈念した一行は福岡空港へ出発した。

全日空の特別室に入りテレビ取材の後当大社巫女三名により全日空スチュワーデスさんへの献上若布手渡し式をシップサイドにて行い十二時四十分発に搭乗し一路東京へ向かった。

献上日の三日、一昨日の雪が嘘の様に晴れ間が広がる中午前十時皇居坂下門より参内し宮内庁へ向い小出掌典長を通じ養父宮司より賢所へ若布献上申し上げた。

続いて山本侍従長を通じ天皇皇后両陛下に献上申し上げた。皇居での献上後宮内庁羽倉氏ご案内の下宮中三殿(賢所・皇霊殿・神殿)の参拝を許され一行は感激もひとしおであった。宮内庁より東宮御所に赴き山下侍従長を通じ皇太子・同妃両殿下へ献上申し上げ本年の献上の儀全て恙無く無事に終えることが出来た。

献上若布を終えると郡内の若布採取が解禁となり漁民も磯行きが続き春の足音はすぐそこ迄響いている。

本年の若布献上者

宗像大社宮司　養父　守
権祢宜　石橋　清寿
鐘崎漁業協同組合
組合長　吉岡　勝
大島漁業協同組合
参事　平田昌三郎
以上

—◇—◇—

御礼

若布献上に際し御協賛御協力戴きました全日本空輸株式会社福岡支店、出光興産株式会社を始め関係各位に誌上より厚く御礼申し上げます。

今年もまた建国記念式典に内閣総理大臣が欠席した。昨年に続いて二年連続のていたらくである。

二月十一日、東京では、建国記念の日と紀元節を奉祝する式典が、都内何ヵ所かで開催された。もちろん反対派の集会もまだ二、三あったが、人数もわづかで、勢力としてはほとんど見るべきものはなかった。

日本国首相は、この日は、政府の総理府などの後援になる財団法人「国民の祝日を祝う会」主催の「建国記念の日を祝う国民式典」に毎年出席するを恒例としてきた。それで、自民党の歴代首相が出席し、一昨年は宮沢首相が祝辞を述べた。

ところが、その後に起った解散・総選挙で自民党が敗退して連立政権が誕生し、社会党などそれまでの野党が政権に参入してきてから事がをかしくなってきた。すべてが連立政権維持の目的のために、これまで固めてきた日本国の精神的土台が融解し始めたのだ。建国の精神の危機である。

○

昨年は八党派連立政権の日本新党(今はもう消えてない)の細川首相が、最初から建国記念の日など無視して訪米し、国を留守にして欠席してしまった。

今年は社会党委員長でもある村山首相が、出席の約束を公にしておきながら、開会の三十分前にもなって急拠、不出席を発表してしまった。官邸にゐながら、何とも無責任な話である。

建国記念に寄せて

村山首相はあとで欠席の理由を聞かれて記者団に「特殊法人の行革のあとの手続きの仕事や危機管理の結論を出すと国会にも約束したから」などと口にしたといふ。それで在日各国外交団や衆参両院議長(但し衆院議長の土井たか子女史は昨年に続いて欠席)等も出席するわが国建国の記念国民式典へ出席するといふ前からの「国民に対する約束」の方は反古にしたといふのだ。その不誠実、不信義ぶりにはあきれてしまうばかりだ。

○

神社人にとっては、建国記念日については格別の深い思ひ入れがある。

敗戦で、占領軍によって強圧的に日本の国家誕生の日まで否定され、廃止されてしまった。この悲しい現実から立上り、日本民族の独立を恢復し、建国の精神を取り戻すべく、何としても紀元節の復活をはかりたいと考へて、まだ占領下の昭和二十六年十二月に神社本庁が意思決定して、その復活の署名運動や政府筋への働きかけを開始したのが、制定運動のそもそもの始まりだった。

ところが実際には、占領軍に迎合したマスコミやいはゆる進歩的文化人、学者などの左翼的、反天皇的な立場からの反対運動の抵抗がかなり強くあって、国会や政府は何度も逡巡し、その立法化には大変な困難がつきまとった。

それでやっと昭和四十一年六月になって「国民の祝日に関する法律」が改正された。だが立法化されたものの、かんじんの何日をもって建国の日とするかが決められず、さらに時を待たざるをえなかった。

結局、半年後の十二月九日、審議会の答申を得て旧紀元節の二月十一日とすることに決定。政令が公布され、翌昭和四十二年になって初めて「建国記念の日」を祝日として国民の祝ふところとなったのである。この間、実に十六年もの苦闘の歳月を要してゐる。

神社本庁は、もともと政治活動をおこなふ組織ではないため、対国会、対政府との交渉や、友好的支持の関係諸団体との連携、共闘など、当時の先輩たちの運動には困難でやっかいな問題がつきまとった。この苦しい運動の中から切実な声として、政治団体の必要性が痛感され、それで神社の直接利益につながる圧力団体ではなく、広く日本固有の正しい伝統を護持し、日本人の精神と思想を高め、自主独立の民族意識の昂揚をはかるため、本庁とは別組織として結成されたのが「神道政治連盟」であった。その神政連もすでに二十五周年を迎へるに至り、この三月二十九日には記念式典も予定されてゐる。

○

村山首相には、歴代首相恒例の一月四日の伊勢神宮参拝を「カゼ」を口実に中止した前科がある。今回も実際には「神武天皇の即位を祝ふ紀元節の復活につながる式典参列反対の社会党内の声」を気にしたためだといふ。社会党の体質は変わってゐず、村山首相は日本国の首相としてでなく、社会党の委員長として進退したのである。

あの敗戦の廃墟から立ち上って粒々辛苦して今日の日本を築いてきて、今年やうやく半世紀の戦後五十年目を迎へたといふのに、この程度の首相しかいまだにもちえてゐなくて、日本国民は誇ることも出来ず、淋しい限りである。どうしたら、日本本来の雄渾なる「建国の精神」を取り戻すことが出来るのか。融解の危機の時代を迎へ、いま一度原点に戻って沈思してみたい。

(神社新報)

余滴

水は巴の字を成す初の三日、源は周年より起って後幾ばくの霜ぞ　篤茂

三月三日は曲水の宴、この行事の源をさかのぼれば、周の代にはじまると云う。その後はるか幾百千年の星霜を経ても水の流れはまがりくねって巴の字を描いている。

若草をわけ山に登る、望めば我が郷里。

流れる川は、曲水の宴の巴の様である。

先頃「立花山」に登った。宗像地方より福岡に向う時、入口に聳える山、ラクダのこぶのように盛り上がった山が立花山である。標高三六七メートル、子供連れでも登れる山として親しまれている。

小さな山には珍しくクスノキ原生林があり、国の特別天然記念物に指定されていると云う。山頂からの眺望は値千金である、博多湾から能古島、志賀ノ島、はるか大島を浮べる玄界灘、海岸線にそって山々が箱庭の様に見える。今のこる中世の山城の跡、崩れし石垣の前に立つと、戦国時代の武将が望みし重要拠点地であった事が理解出来る。

今年は選挙の年である。四月には知事選挙が控えている。各立候補者の方々も、我が町、市、郡、県を高き処より眺望すれば、水の流れ、緑の大切さ、住居地、道路の設計が生きて来る様に思う。

地球規模で自然破壊防止が叫ばれている現在、地球の温暖化、水質破壊、酸性雨等々問題は山積している。今回の選挙にあたり、特に自然保護の大切さ、重要性を政治家に求めたい。

第四〇五回　宗像大社歌会詠草

中村吾郎　選

毎月末日〆切

福岡東　桜井　ツ子

カルデラに晩秋の日の照り翳り鋭き風は我が髪を吹く

(評)日の照り翳るカルデラの底から吹きあげてくる風か、そこに髪吹かれ佇つ作者。豊かな詩情を含む。

日の里　後藤　君代

悲なく老いゆく吾は目に見えぬものの加護ありと今宵も思ふ

(評)惨めそうな歌の多い中で、これは健康への満足感があって異色。「悲なく老いゆく」がよい。

河東　薄　かほる

指示する声も聞こえてアナウンサーは津波警報くり返し告ぐ

(評)津波を告げるアナウンサーの声の中の指示する鋭い声に緊迫した状態が感じられてなかなかの作。

土穴　瀧口　敦子

籾の種放置されをり畦道に冬日を浴びて青き芽を吹く

大島　目原　節子

声あげて一勢に荒磯翔つ鴎高く舞ひつつ霧にまぎるる

朝野　藤井　浩子

群なして鳶舞ふ浜辺波白く玄界灘の風はつめたし

名古屋　小田　留子

騒がしくかもめ群れいる外堀に緋の色透けて鯉の潜める

自由ケ丘　津江冨美子

一面の刈田を黒く埋めつくす鴉の群れをおのののきて見つ

福間　本松　宣子

寒空に毛を煽られてうづくまる野良犬一匹荒畑の中

福間　山田よし子

綿雪に埋まる霊場の地蔵尊赤きエプロン花と見紛ふ

大島　越智　治子

木守り柿をひよどり二羽が啄みてやがて飛び去る冬の昼過ぎ

ひかりケ丘　藤原みさを

参道にあるかなきかの風あり て前ゆく人の香水匂ふ

日の里　大和美由紀

夕暮れの人影去りし公園にひとつ大きな雪だるまあり

武丸　中村さつき

みはるかす田畑埋めて雪積もり晴れて眩しき節分の今日

名古屋　小田　喜一

逆さまに根を張るごとく大欅空に拡がる枝の細かき

徳重　石松や寿子

一人住む豊中の従姉気になれど通じぬ電話に二夜ねむれず

大島　屋形トミエ

月冴ゆるこの年の瀬よこもごもの哀しみ有りて除夜の鐘聞く

大島　河野　英子

小春日に芒輝く岸辺にはかいつぶりと白鷺寄添ひて憩う

吉留　白木うめの

大地震に島沈みたるは湾どこ波立てて大き船の行き来す

田久　井上　光

波打ちて低く冬野を翔け行ける鴨いづくにや北風に向ひて

鐘崎　安水　久子

目途のなき断水続く週末を湯舟満たしめ娘の帰り待つ

自由ケ丘　調　貞子

木の枝のめじろに飛びつくしなやかな猫の背中に初雪の降る

城西ケ丘　石井　陽子

母共に風邪に臥したるこの日より部屋内重く空気動かず

福間　池浦千鶴子

北風の吹く方向に背をむけお辞儀するごとすすきのつづく

原町　八波　五月

珍しく今朝白じろと雪積もるテントに眠る人の多きに

全文連西日本ブロック 研修会開催

去る二月二十五日、当大社に於て、全文連西日本ブロック研修会が開催された。

「全文連」とは社団法人全国国宝重要文化財所有者連盟の略称であり、国宝、重要文化財の所有者等が協力して文化財の保存と活用を図り、我が国の文化の発展に寄与することを目的として結成された団体である。

我が国には文化財が極めて多い。単に数が多いという点では、世界の中で中国、エジプト、ギリシャ、ローマにも見られるが、これ等は埋蔵文化財であり、日本の場合は、古くより人から人へと伝えられた文化財であり、世界的にみて極めて特徴的である。

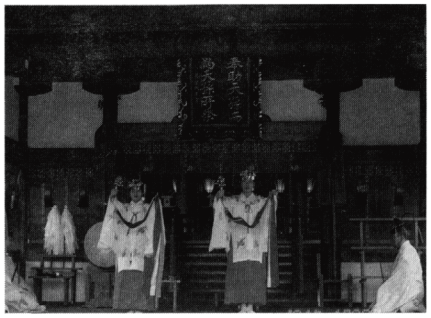
昭和二十五年に文化財保護法が制定され、国の文化財保護施策が法制化により整備されてはいるが、文化財保護は法のみで解決するものではなく、十分な体制とは言い難い。文化財の修理、維持管理、原材料や技術者の確保、財政、税制問題等々、所有者にとって種々の問題が山積し、文化財を取り巻く環境は厳しいものがある。文化財保護のためには、国や地方公共団体の施策と共に所有者の適切な管理が必要であり、更には学校や社会に於て、文化財の学習を広範囲に進め、文化財に対する理解と愛護思想の啓蒙活動を積極的に展開することにより、次の世代への明るい展望を開いていくことも重要な課題である。

これらの諸問題を解決すべく昭和五十二年に三十八名の文化財所有者が京都に集まり、全国重要文化財所有者連絡協議会を結成し、任意団体として種々の活動を続けてきたが、平成四年五月、正式に社団法人化が実現し、現在五百五十余名の会員を擁するに至っている。その間、文化財維持管理事業の新設、国庫補助金の増額、重文民家の相続税減免の実現等の成果を挙げてきたが、その活動の一環として今回の研修会が開催されたものである。

当日は全文連理事長松浦国男氏（久能山東照宮宮司）を始め西日本地区から四十名の会員が参加し、文化財の保存管理上の諸問題について討議が行われたが、中には「阪神大震災を機に木造建物の耐震性の調査と対策についての指導」や「ユネスコの世界文化財遺産として我が国の文化財が登録され、文化財保護の風潮が世界的に高まる中で、文化庁を省へ昇格し強力な文化行政を推進すべき」等の要望も述べられた。協議会後、文化庁美術工芸課主任文化財調査官松島健氏による「仏像の保存修理について」の講演会がスライドによる実例を示しながら一時間程行われ、一同興味深く拝聴した。閉会後、当大社神宝館に入り、海の正倉院といわれる沖ノ島祭祀神宝を始め数多くの文化財を見学。午後五時、全日程を無事終了して解散した。

建国祭斎行

我が国の創建を祝う



二月十一日「建国記念の日」午前十一時より恒例の建国祭が斎行された。

当日は晴天に恵まれ小春日和の中、養父宮司以下神職は斎服に身を整え奉仕巫女、地元総代と共に本殿に参進し拝殿所定の座に着座し祭典を斎行。

宮司が神武天皇創始以来の日本の国体護持と皇室・国家・国民の弥栄を祈念し、祝詞を奏上。続いて巫女による浦安舞の奉納、宮司以下玉串拝礼を執り行い滞り無く祭典を終了した。

毎年建国の日には奉祝、反対の両集会が開催されて紙上を賑わしているが、何処の国にも誕生日があり、国旗が制定され、国民は誇りを以って国の成立を祝い、高らかに国旗を掲揚している。そんな世界の中で一部の日本人は日本の象徴の旗印を歓迎しない。

日本人が日本国の誕生を祝い、国の旗印を世界に向って堂々と掲揚する時に、純粋な日本民族の誇りと、先祖より受け継いできた文化財産に改めて敬服し、日本民族の偉大さを認識すると信じている。

こうした点から二月十一日の意義を十分認識し、世界でも有数の国家歴史の伝統を持つ我が国を子孫に対して誇りを持って伝承していきたいものである。

神郡宗像の春祭り

『孔大寺神社祭』

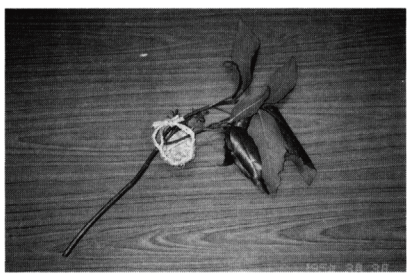
三月二日、孔大寺神社の例大祭が斎行された。宗像と遠賀の境に位置する四塚連山の最高峰が孔大寺山である。その中腹に同社は鎮座している。

御祭神は、大巳貴神・少彦名神で籠の池田地区の氏神である。当大社からは、例年神職一名が献幣使として参向し幣帛を献げている。

当日は、例年になく好天に恵まれ、春を感じさせる様な暖かさを山中でも感じる事が出来た。午前九時半籠の同社遙拝所に神職氏子が参集。池田の婦人会より甘酒を振舞われた上、一同石段の続く山道を登拝した。各人が自分のペースで上った為、山道には人の列が長く連なり各所で談笑が交わされた。途中の清水で手水の後、三十分程で本殿に到着する。

午前十一時、祭典が永島宮司の奉仕により、池田区長、氏子代表の参列のもとに斎行された。

祝詞奏上、奉幣詞奏上と続き、玉串が捧げられて、祭典は無事終了した。その後、ささやかな直会が拝殿にて行われた。又、直会の間に地元婦人会より奉製されたアオキに草履を付けた疫病除けの御守が授与された。今回奉製された御守は約五百体。最初、百五十体から始められた婦人会の奉製も年々登拝者の増加に伴い年度に増えている。当日も岡垣町の登山クラブを始め多くの参拝者が御守を求め、午前中ですべて授与された。古来の伝統文化が、新しい時代の人々に理解され継承されてゆく、良き風習をここに見た。



㈱新出光初午祭

社業繁栄と安全を祈る

福岡市の呉服町に本社を置く株式会社新出光（代表取締役社長出光豊氏）の社屋上に鎮座する「新出光稲荷神社」初午祭が、二月八日午前十一時より斎行された。

同祭典には当大社より太田権宮司始め神職三名が、奉仕の為出向し、新出光から出光社長以下関連企業各社の代表が参列。

定刻十一時、稲荷神社神前に斎主以下祭員が列立。開式の辞の後、修祓、太田権宮司より今年一年の社業繁栄、社員の健勝を祈る祝詞が、朗々と奏上された。

次に斎主が玉串拝礼を行い、出光社長が関連各社を代表して玉串を奉奠した。引き続き隣に鎮座する宗像神社を拝礼し、滞りなく祭典が終了した。

祭典終了後、同社五階会議室に於て出光豊社長外参列者が集い直会が始められた。直会の際には、祭典に関することが話題に多くのぼり、和やかな内に宴が催された。

稲荷神社とは、京都の伏見稲荷大社を総本宮と仰ぐ。その御鎮座は、和銅四年とされ、秦伊呂具が餅を的として矢を射つ悪行に、餅が白鳥に化けて今の稲荷山に飛んで行き、山に稲が生じた故に社名となったという伝承がある。元々は五穀豊穣の神であったが、今日商業の神としても崇敬されている。

初午は、右の御鎮座の日を祝して神人和楽の刻を過ごす祭である。敬神の念厚い㈱新出光では、毎年初午祭、春祭りを斎行し社業の安全と繁栄、並に社員の健勝を祈念されている。

宗像大社 春まつり（保存会）御案内

春の大祭を左記行事日程で斎行致しますので、皆様方お誘い合せの上、御参拝下さいますよう御案内申し上げます。

平成七年三月吉日

宗像大社社務所

記

三月三十一日　午後五時　総社地主祭
午後六時　宵宮祭
四月一日　午前十一時　大祭（氏子奉幣、主基地方風俗舞、浦安舞）
二日　午前十一時　総社祭（献上若布採取者表彰）
交通安全講社祭
午前十一時四十分　宗像護国神社祭
高宮祭
第二・第三宮祭
午後二時　献茶祭（南坊流小方社中）

神賑行事

四月二日　午前九時　奉納剣道大会（於境内―本殿脇）
四月十五日　午前十時　奉納吟詠大会（於清明殿）

一誌一話 (41)

中国調査紀行(四)

樂 杏子

そうこうしているうちに漸く、アルタイ山脈の裾に伸びて、長々と築造されてきた漢代の古城である塔利故城に到達した。崩壊が著しい城壁に立つ。乾燥レンガと粘土との積み上げに寄り造られている城壁は、草原の高粱畑の中に二重の線を描いて築かれ永々と続いている。これは外敵騎馬軍団匈奴に対する構えである。

今夜の宿、昭君大酒店で昼食をし休息後、蒙古博物館を見学に行く。一階が古生物と民俗・芸能。二階が歴史と文化とした、鉄筋コンクリート二階建ての総合博物館方式をとっていた。この地は古来騎馬民族の寄留地であったこともあって、やはり展示物の主流は、何と言っても馬具類である。匈奴の古墳から出土した春秋戦国時代の青銅製の馬具類が多量に展示されていた。特に馬の面飾と馬鐸の類いが数多くかかげられている。

馬の飾り金具のなかでも、胸の飾りである胸盤（沖ノ島祭祀遺跡より出土した香炉状品と同類型）が目を引いた。

胸盤は頭頂部が脚台形状をなしている二段構造の、どんぶり蓋を伏せたような型である。胸盤の上部にあたる脚状平底型の平面には、真中に小孔をあけ紐で頸から垂げるようにしている。その周囲には蓮華文をあしらっている。胴部にあたる碗状に膨らんだ中段部の全面には、鳳凰と唐草文とを組み合わせた文様を描いている。下段はゆるやかに平ら状に広がり、ここには唐草文が帯状に描かれている。末端の最下位の部分には小孔を一列に穿ち、ここから房を並び懸げている。

沖ノ島出土の香炉状品とは形がいくらか異なるが、香炉状品が持つ文様と様式から推測して、沖ノ島祭祀からの出土品も、やはり馬の胸飾りの一種であったと考えられる。

胸盤から見る文化は、中国の古代文化の源流ともみられる、唐草文と鳥獣文との組み合せと、はるかにカイバル峠越えして入ってきたインド仏教美術との混入で生じた文様帯の定着である。

ここの馬具類からみていくと、沖ノ島の出土品とも考え合せて、モンゴル東部の六世紀代の文化の一端をみることが出来る。

話は飛ぶが、この辺りにもラマ教が入ってきていると聞き、帰りにホテルの近くにあるラマ教寺院を参拝する。境内も狭く小さな寺院であったが、装飾等は割と毛羽毛羽しく稚拙である。仏教文化とはやはり異文化に見えるし感じること特になし。

八月七日（日）フフホトを後にしSLの軌臥車に乗り込む。ゴビの砂漠の北外れであるこの地は、純農村地帯でありポプラ並木の中に畑地をなす。見渡すかぎりの畑である。麦畑、野菜畑、ヒエ畑、ヒマワリ畑、アワの畑、トウモロコシ畑、スイカ畑を見ながら山裾を蛇行しながら南下して行く。今日は一日中列車の旅である。進むごとに砂漠の中に入って行き高原地帯を登っていく。煙りを大きく吹き出しているが足が遅く、息を衝く、青息吐息の様にみえる。

つづく

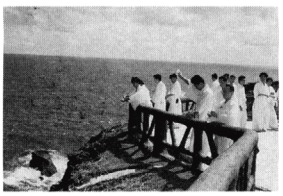
大東亜戦争終結五十年
サイパン慰霊祭を斎行
主催　神道青年会第一部会

戦後五十年を迎えるに当り福岡県神道青年会第一部会（会長杉山安彦）では、「大東亜戦争五十周年サイパン慰霊団」を結成し、二月二十日から二十三日迄の三泊四日の日程で北マリアナ連邦サイパン島を訪れ慰霊祭を斎行した。

この慰霊団は福岡県内の神社に奉職している若手神職が中心となって、今年が大東亜戦争終結五十年に当たる事から、先の大戦で南太平洋に散った多くの英霊に対し、慰霊祭を営むことによって少しでも英霊の想いに触れ、平和と大東亜戦争の意味を考え、今後の神道青年会としてのあり方を今一度問い直したいという想いから結成されたものである。

この慰霊団には県内の神社より三十名の若手神職が参加した。

二月二十日午前十時、福岡空港に集合、VIPルームにて、結団式を行った後十一時四十五分コンチネンタル航空にて空港を出発した。約四時間程で、グァム島に到着、グァム島で約二時間程休憩して目的地サイパン島へ向った。サイパン島には午後七時頃到着、すぐホテルへ直行し、休む間もないまま、ホテルの一室にて、明日の慰霊祭の最終チェックを行い就寝。



翌二十一日、空は青く、すでに二十五度を越える。今は乾期で湿気がないとは言うものの、暑さは厳しかった。午前八時、式典準備の為先発隊が出発、一時間遅れて後発隊が白衣白袴に正装し、ホテルを出発した。

式典はサイパン島の北端ラスコマンドポストにある日本政府が建立した「中部太平洋戦没者慰霊碑」の前で行った。

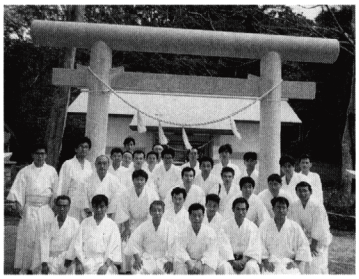
現地は好天に恵まれ、三十度近い中、先ず英霊に対し黙祷、国歌斉唱。続いて修祓がなされた。その後、斎主（平尾八幡宮司石橋一成）がこの激戦地で尊い生命を捧げられた英霊に対して祭詞を奏上。次に斎主玉串、団長、福岡県神道青年会代表と続き、敬虔な祈りが捧げられ、慰霊祭は滞りなく終了した。

またその後、米軍に侵攻された日本兵が、母国を遥かに望む岸壁から散華されたというバンザイクリフまでの約三キロを全員で歩き、酒と塩を散供し、当時の日本兵の壮絶なる心中に思いを馳せながら、今日の日本の礎となられた英霊に対し報恩を捧げた。

戦後五十年、わが国は国民のたゆまぬ努力によりめざましい復興をとげ、国際社会に於ても揺るぎない地位を占めるまでに発展しつつあるが、我々は、戦後の平和と繁栄の陰に、多くの尊い犠牲と努力があったことを忘れてはならない。戦争を知らない我々にとっては、平和というものを改めて考えさせられた誠に貴重な体験であった。

慰霊祭の後、バスで島内の戦跡を巡り、最後にサイパン島中部に鎮座する香取神社を正式参拝した。

この神社は大正三年の創祀。その後大東亜戦争のサイパン攻防戦で焼失。昭和六十年、地元政府の要請で再建、復興されたそうである。神社の周辺には、当時の石灯籠や神社名の記された石碑等がそのままの形で残され、戦争の爪跡を今に伝えていた。



翌二十二日、当初の目的も終え、各自、島内観光、サンゴの島マニャガハ島に渡るなどしてサイパン島を見学した。翌日、全日程を無事終了し、慰霊団一行三十名は帰路についた。

氏子会副会長
倉元清彦氏
個展を開く

全日本美術協会主催の第二十九回全展で、「海外留学大賞」を受賞された倉元清彦氏が今年三月に宗像市中央公民館で個展を開かれ、地元市郡民を始め、絵画愛好家の人気を呼んだ。

倉本氏がこの大賞を受賞されたのが平成三年（一九九一）であった。

氏は、宗像郡福間町本木に在住され、農業従事のかたわら、油絵を趣味として始められて二年目にこの大賞を受賞された。幼少の頃より好きであった絵画も、六十五才を過ぎての手習いであった。

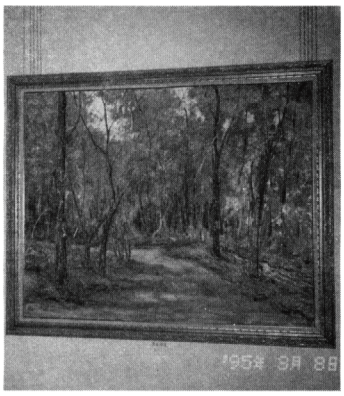
海外留学大賞の傑作「奥入瀬秋景」を始め作品全四十二点が会場を埋めて参観者の賛嘆をあびていた。

倉本氏は、篤農家としても知られ、当大社氏子会副会長を歴任、又全日本美術協会準会員、全展宗像支部長、福間町美術協会会長など公職も多く、毎日多忙である。この様な時間の中にありながら、平成四年（一九九二）には全展本展に於て「全日本美術新開社賞」を受賞、さらに平成五年に九州全展の福岡県知事賞、平成六年には九州全展の北九州教育会賞を受賞された。この実践は倉元氏がいかに才能に恵まれておられ、努力されているかの証と云えよう。

趣味の世界からプロの世界へと躍進され、日々努力を重ねられる氏の作品からは年令を感じさせる作品は一枚もなく、若く、美しい風景が、人物が、たくましい筆走りで表現されている。

「阿蘇早春」から「見返り阿弥陀仏」迄の四十二点中に大社境内をスケッチされた作品三点「神籬の社かげ」「神宝館への道」「春の神苑」も掛げられている。

倉元氏の今後益々の御活躍を祈りながら会場をあとにした。



出展作品

①阿蘇早春②水源の森③黒岳緑道④平尾台羊群原⑤梨花満開⑥神籬の社かげ⑦上高地梓川⑧喜び⑨黒岳錦秋⑩山峡雪景⑪高原の秋⑫阿蘇田植えの期⑬こみ山稲刈の朝⑭小城のひまわり⑮奥入瀬秋景Ⅰ⑯奥入瀬秋景Ⅱ⑰神宝館への道⑱日向ぴょっとこ踊り⑲阿弥陀様⑳釣川菜種㉑福智山秋景㉒大鳴ダム㉓村はずれ㉔つばき㉕春の神苑㉖山口の山里風景㉗緑川上流㉘ゆりと菊㉙洞海風景㉚西海長開なり㉛稲刈り㉜鹿野雪景㉝ばらⅠ㉞古刹の石段とかべ㉟本木一林道㊱アムステルダム港夜明け㊲赤川より阿蘇遠望㊳宮司の大桜㊴ばらⅡ㊵初期の作品（本木）㊶このみ山春景㊷見返り阿弥陀仏

社務日誌抄

二月一日　月次祭
二月二日　出光千葉計算センター所長稲沢進氏他一名参拝
出光興産㈱仙台支店長吉田正義氏他十九名参拝
新潟光運会十二社十六年参拝
会計検査院調査官安藤勉氏、玄海町役場産業課長永島氏来社
宗像医師会宗像医師協同組合廣瀬正登氏参拝
二月三日　節分祭
二月四日　八幡髙安全衛生連絡会参拝
出光興産㈱兵庫製油所出光タンカー㈱参拝
新宮校八六〇名町久徒行の為来社
二月五日　菊池神社坂本宮司他総代三十名参拝
二月七日　苦小牧東部石油備蓄㈱、日本道路公団名古屋建設局参拝
群馬県立博物館石川学芸員他一名来社
二月八日　玄海町消防団第一分団歴代分団長参拝
二月九日　出光興産㈱川崎油槽所々長長谷川徹氏参拝
二月十一日　建国祭
東京出光会二十七名参拝
二月十五日　月次祭
北海道出光会釧路支部北見支部一行七名参拝
徳山パルクターミナル㈱代表取締役社長西川千昭氏来社
職員会議
二月十六日　東北アポロ㈱
㈱出光ホームガスセンター福島・㈱出光ホームガスセンター山形、㈱出光ホームガスセンター秋田、㈱出光ホームガスセンター岩手、㈱出光ホームガスセンター八戸参拝
中国アポロ㈱参拝
福岡市博物館下原学芸員来社
二月十七日　千葉旭興産㈱参拝
二月十八日　新潟工事㈱、出光愛知輸送協力会々長渡辺光治氏参拝
二月二十日　宗像大社奨学金打合せ会
二月二十三日　八女地区総代会六十八名参拝
二月二十四日　出光千葉エンジニアリング千葉事業所八名参拝
二月二十五日　全文連西日本ブロック研修会開催
全文連松島文部技官、後藤事務局長他三名来社
二月二十六日　出光興産㈱海外部外航課長西村準明氏他一名参拝
久能山東照宮松浦宮司他一名参拝
二月二十八日　TVQ「おもしろ探検」番組取材の為九州東通プロデューサー門健一氏、並リポーター川上政行氏他三名来社

〔祭典案内〕
沖津宮現地大祭

来る五月二十七日、宗像大社沖津宮に於て、日本海海戦の日を記念し国家の安泰を祈る、沖津宮現地大祭を斎行しますので、参拝希望の方は御連絡下さい。

記

沖津宮現地大祭要項

一、参拝者は、沖津宮奉賛会費として一名に付、壱萬円お納め頂きます。

二、参拝希望の方は、当社製の参拝申し込み書を五月十日迄（必着）に、宗像大社々務所宛に御返送下さい。

三、五月二十六日（金曜日）午後六時迄に中津宮（大島）に到着し、受付を済ませ、宵宮祭にご参列して頂きます。

四、五月二十七日（土曜日）午前六時大島を出発。沖ノ島到着後、直ちに海水にて禊をして頂きます。祭典は午前十時斎行の予定です。午後一時、沖ノ島を出発し、大島到着は午後四時の予定です。

五、大島～神湊間のフェリー最終船は午後六時です。

六、渡島不可能の場合は、大島の沖津宮遥拝所に於て祭典を斎行致します。

七、乗船者数に制限がありますので、定員を超える場合はご遠慮願うことがあります。

八、年令七十才以上の方の渡島は、関係筋の通達によりご遠慮願います。

尚、長時間の乗船に堪えられない方や、健康状態が良好でない方は御遠慮願います。

九、申し込み者には、受付後参加の諾否を、葉書にて御通知申し上げます。

沖津宮参拝心得

一、遊山、魚釣等を目的とし、釣具類を持参しての乗船は固く禁止します。もし、違反があれば、乗船をお断わり致します。

二、沖ノ島上陸の際は、古例により海水にて禊をし、心身を清める事。

三、御神水以外は、一木一草たりとも持ち帰る事を禁止します。

又、厳重なる掟がある為、婦女子の参拝は固くお断わり致します。

※大島での宿泊につきましては当大社ではお世話しかねます。参拝要項に同封の、大島の旅館・民宿のパンフレットを御参照の上、各自にて直接予約をお願い致します。

参拝申込書、心得、要項等を用意しておりますので、返信用切手同封の上左記宛御申込み下さい。

申込先

〒八一一－三五
福岡県宗像郡玄海町田島
宗像大社社務所　儀式課　沖津宮現地大祭係
電話　〇九四〇(62)－一三一一(代)
FAX　〇九四〇(62)－一三一五

宗像大社歌会 俳句作品集（三八四）

ひかりケ丘　南　萬里

山おぼろ一樹おぼろや鴉の巣

藤　沢　井上　玄洋

千切雲流れるさまも春めけり

自由ケ丘　細川　絹子

寒ぞらを瓦礫の中に子を悼む

福岡中央　力丸　玄風

白梅の若き枝ごと空持てり

福　間　二宮　末子

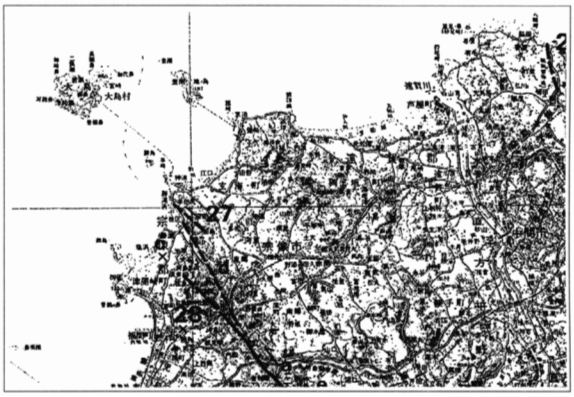
正月は親より子供金を持ち

若　松　高橋　忠賞

風や音ときれつつ救急車

（続）海の寄物 94

いしいただし



福岡・天神の書店へ行くと、地震関係の本が積まれている。私は「地震考古学」（寒川旭著）を一冊購入してきた。家でパラパラとめくる。公家山科言経の日記「言経卿記」の部分が目についた。一五九六年（慶長一）、京都の本願寺付近で大地震に遭っている。この地震では郊外の伏見城が倒壊しているほどの激震で、被害は広範囲に及んだ。日記は京の被害の他に「兵庫の家々も崩し、火災が発生して焼けてしまった。死者の数ははかりしれない」と記されている。阪神大震災と同じ状況が十六世紀末にあっているのだ。地震…地震…阪神大震災の恐怖の映像が目に焼きついて離れない。

宗像市大穂の宗生寺を訪ねたら、若い方の住職は神戸へボランティアに行かれて不在だった。震災地も最初は医療活動と若い労働力が必要だが、後半は宗教家達の役割が大きい。

大震災から間もない職員室、先生達が集まってガヤガヤ、近寄って見ると、東京大学出版会から刊行されている「新編・日本の活断層」がひろげられている。地学の花田亮一先生が用意されたものだ。

その中に、福岡県北部の活断層地図がある。活断層は宗像市郡に走っているのではないか、「宗像にもあったのか」恐怖が走った。

西山断層系の「福間―若宮断層」で、確実度Ⅰ、活動度B、走向NW、L最大七〇〇m、延長一四km」付随して、須多田（津屋崎）、村山田―桂区、東―大井、福間大和断層がある。西山断層系は次のように記されている。「これは当図幅内でもっとも明瞭な断層変位地形をもつ左ずれ活断層系で、地質断層にほぼ一致する。このうちの福間―若宮断層に沿う西山（六四四・六m）東麓で、断層鞍部列や閉塞丘の地形がはっきりしており、四本の河谷に一五〇―最大七〇〇メートルの左ずれ屈曲が認められる。基盤地質のくいちがいも左ずれを示唆する。この付近では山地高度の不連続（断層崖）から南西側が相対的に二〇〇―三〇〇m隆起したとみられるが、その断層崖比高は北西方向へ急激に低下してゆく。また、東南延長の若宮町脇田付近には、逆に南西にむく比高七―一五mの低断層崖がある。さらに飯塚西新層も雁行状の配列をもって同じ方向に延びる。飯塚市街地南西方の棒付近まで追跡され、北東へむいた比高一〇m程度の低断層崖がみられる」とある。また地図（福岡県北部）には三二箇所の活断層の図が示されているし、過去の地震の記録も示されている。一八九八年八月十日の糸島半島でマグニチュード六が、それから二日後、余震であろうか五・八が起っている。一九二九年八月八日には福岡県能古島付近で五・一が、一九三〇年二月五日には糸島郡上深江で五・〇の地震があっている。

一月一八日付の朝日新聞は「活断層無数に走る」という見出しで、九州・山口直下型地震ありうるかとして「日本の活断層は　数え方によるが、二千数百はある」と九大の松田時彦教授のコメントを入れて「活動度B以上でM七以上の地震を引き起こす可能性がある断層に限っても九州山口では十本ある。十本はいずれも活動度Bで、①山口県岩国断層帯（長さ五十キロ、地震の最大規模M七・七）②同・菊川断層（二五キロ、M七・二）③福岡県・西山断層帯（二四キロ、M七・〇）等十ヶ所があげられている。

同紙は「九州はユーラシアプレートの東端にのっており、その下に東からフィリピン海プレートが潜り込んでいる。常に圧力を受けているユーラシアプレート内で、耐えきれなくなった岩盤が砕けると、断層がずれ、地震が起きる。震源は深くても地下二〇キロだ。「日本の活断層」を見るかぎり、どこも危険なところばかりである。もう逃げも隠れようもない。

宗像むかしばなし

黄金騒動

江戸の初期、承応年間というから約三〇〇年程昔であろうか、今の玄海町池田部落での出来事である。時の池田村は、全人口約七百数人を数え、一村をなしていた。部落民の多くは農耕を主とし、田畑を持たぬ民は、銅山の採掘等でその日を送っていた。末吉も老母をかかえ、妻との三人暮らしの糧を銅山で細々とつないでいた。

今日も無事に仕事を終え、最後の鉱石をショイコに入れ、眩ゆく沈み行く太陽をながめ、汗を拭きながらお互に黒くなった顔を見合せて笑いあった。と、その時、末吉は妻のショイコの中にキラリと光るものを見た。しかし暗い坑道から急にこの明るい夕景色の中に出てきた目の錯覚と思い、なおも汚れた手拭で眼をこすった。目の縁を黒くし、キョトンとしている末吉を見た妻は、大声をあげ笑うのであった。が末吉愈々真剣に妻のショイコをのぞき込んだ。まさしくその鉱石は金色に輝いていた。これを知った妻も、黒く汚れた顔から血の気が引いていくのを覚えた。このことを聞きつけた村人が一人として黙っておろうはずは無く、たちまち村中の一大事となった。この噂を聞いた庄屋も、早速末吉の家に生き、事の一切を聞き御上に報告した。やがて末吉は身に余る褒美にあずかった。

金山の取沙汰は、遠く江戸表までも達し、薩州はいうに及ばず、江戸からまでも金山堀りに来る程であった。金山は、鐘崎、勝浦、上八村までも広がり、いたる所に杭が設けられた。

このようにして、他の国から一度に多勢の山師や人夫が村に来たため、庄屋はこれ等の人々を村の帳面に加うべきか否かを相談し、御公儀に伺いを出す始末となった。一方、この時以来村人の生活は年々派手になり、ついには、元禄十六年（一七〇三）万端質朴にし、分不相応な家の建築を禁ずる御達しまで出された。けれどもこの達しのでた一、二ヵ月はまだしも、日の過ぐるにつれ、前よりも一層華やかな生活振りへと変わった。御役所でもこの生活振りを見かねて、同年より文政に至るまで、御達しは度々出された。例えば、百姓の衣類は木綿とする。大庄屋、庄屋の子供に至るまで謡鼓の稽古を禁ず。耕作を第一に心得、倹約の法を守るべし。白米はむやみやたらと使用すべからず。商人、旅人は村内で絹類の取扱いを禁ず。婚礼は質素にし、ベッコウ櫛等の使用を禁ず等々であった。

こんな情勢の中でも、末吉一家は質素に暮し、天保年間の頃には金山での仕事を止め、もえ石（石炭）の採掘に全力を注いだ。かくも一世を風靡した黄金ブームも、江戸末期には量の少いことが知れ、年ごとに廃抗となっていった。

池田村も、文久二年（一八六二）金山奉行武久又市郎の病死により、奉行所の一切が引き払われ、ついに中止となった。

村に残ったものは、草原と化した田畑と、華やかな生活振りのみであった。村人も昔の日々を忘れ得ず、夢のみを追う一寒村となっていった。

これまで村人からまったく見向きもされず、一人〝もえ石〟に力を注いだ末吉は、又もや村人の注目の的となり、昔変らぬ夕暮を妻と二人ながめつつ幸福な家路につくのだった。

故郷の神宝 (13)

岩陰祭祀に供えられた品々

前号で述べたように岩陰で祭りがなされた時期は六～七世紀であり、古代において内外ともに動きのはげしい時代であった。この時期の祭りに供えられた品々は朝鮮新羅で作られ、渡来したものが多く用いられている。ここで特別な品物を数点解説してみる。

〈金指環〉　径二センチ前後と、指輪としてはかなり大きく、男主用につくられたものであろうか。正面からみると菱形をしている。純度一〇〇パーセントはあろうといわれている様に、いまもなお燦然と光り輝いている。指輪は、薄い金の延べ板の中央部を菱形状に切り広げて、後に行くに従って狭まり、背面を鏨付け細工の方法によって接着して環帯状に作りあげている。

金板の表面には鱗状の物で研磨した摺り上げの跡が、はっきりと良く残っている。上部と下部の周縁は蛇腹状の隆起帯としている。指輪の正面の菱形状の中央には、四花弁の文様を作り着けている。その中心と上下左右には各々に、小円環を配した花柄としている。又、円環は左側に八個、右側に七個と帯状に続けて、等間隔に貼り着けてはいるが、背後は間を持たせて空白としている。花弁、円環ともに角形の細い金の針金を細工し鏨付けしたものである。同じように蛇腹状隆起帯も、薄い金板を、叩き出し工法により細工し、貼り付けたものである。

指輪の花文や円環に使用している金の針金は、古代多くの太刀の柄頭や刀身、また馬具の鞍金具等に施こされる、金象嵌用に作られた金製針金を使用したであろう。

この様な切り金細工による金指輪は、日本では他に類を見ることが出来ない。一方隣国朝鮮半島では、新羅時代の古墳である金冠塚や金鈴塚から、同様な金細工が施こされた金銀製品が多量に出土してきている。慶州普門里夫婦塚古墳出土の金製太鐶式耳環や、半島各地の金製腕輪類の細工にも酷似しているものが多い。

正面が菱形をなしている形式の指輪は、韓国々立博物館所蔵の古新羅時代の金指輪に共通点をみることが出来る。

新羅の金細工の技術は、すでに中国では漢代や楽浪文化で行われていた、純金製帯鉤や金象嵌の技術の伝統が流入してきて、この作法を受け継いできたものと言われている。この金の指輪をよくみると左右不対称の作りである。ちょっと目には違和感がある様だが、それがかえって、全体に調和のとれた落着きを持たせている様である。この不均衡な美的感覚が現代にも共通する芸術性を有しているといわれている。

これからみると人間の感性というものはまったく変化がなく、古代人も現代人もやはり同一というものか、またはたかだか一千年や二千年の隔りでは、一個の物の変化はまったく無に等しい。

人間が持っている感性そのものが、ある一定のところまでに達すると、停止し、進歩というものが無くなってしまうとも考えられる。

〈松〉